工事施工に伴う近隣家屋等の事前・事後調査

家屋等の事前調査

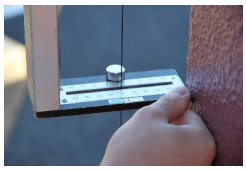
着工前に工事の影響範囲内にある家屋等の現況を調査します。

≪工事期間中：近隣住民から被害の申し出等があった場合は速やかに対応します≫

家屋等の事後調査

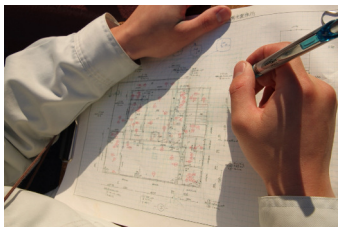
工事完了後、工事の施工により家屋等にどのような影響を与えたかを把握するために、亀裂・隙間・傾斜等の調査をします。





工事との因果関係判断

事前・事後調査の結果から工事と損害の因果関係を判断します。





報告書作成

工事前後の調査結果から、家屋等の変化の有無・程度をわかりやすく調書にします。

※なお、最終的に住民と交渉が必要な場合の交渉業務も別途承ります。
詳細はお問合せください。

軟弱地盤など、施工近隣地の環境によっては、近隣家屋に想定外の被害が発生することがあります。
もし、住民から被害の申し出があったら・・・

技術や機械が日々進歩しても、完全に抑えることが難しい振動や地盤変化。
家屋調査を行う理由は、工事中や、工事後に発覚した家屋の破損と工事影響の因果関係を明確にするためです。
工事が始まり、振動が生じると近隣住民の中には「振動で家が壊れないだろうか」という心配を抱き、それを機に自分の家を注意深く観察するようになり、それまで気づかなかった以前からあった破損箇所に初めて気づくこともあります。
そのような破損箇所の写真撮影や地盤の高さ、柱や床の傾きを調査し、報告書を作成しておくことで、万が一工事後に申し出、問題が起こっても、感情に左右されず事実に基づいた客観的な証拠となり、迅速な対応や、問題解決、そして近隣住民との融和につながります。

近年、社会的に被害に対する住民意識や、知識レベルが高まっていることもあり、工事施工に伴う家屋調査は近隣住民とのトラブルを未然に防ぎ、スムーズな施工監理の一助に役立ちます。